

体育科学習指導案

指導者 植田 慎司

1. 日 時 平成 27 年 11 月 30 日 (月) 第 6 限目 (14:45 ~ 15:30)

2. 場 所 大阪市立横堤小学校 運動場

3. 学年・組 第 5 学年 3 組 (計 32 名) 男子 15 名、女子 17 名

4. 単元名 サッカー (ボール運動領域 ゴール型)

5. 学習のねらい

相手のいないところに移動し、パスを受けシュートすることができるようとする。

(技能)

仲間で、よい動きを教え合ったり、励まし合ったりすることができるようとする。

(態度)

チームや個人の特長を生かして簡単な作戦を考えることができるようとする。

(思考・判断)

6. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は体育の好きな児童が多く、運動会のソーランの練習では、休み時間や放課後に進んで練習する姿が見られた。また縦割り班活動では進んで1年生を迎えていたり、ゲームのルールを分かりやすく説明したり、高学年として意欲的に活動しようとしている。

地域のサッカーチームやソフトボールチーム、キックベースボールチームに所属している児童もいて、休み時間にはボールを使って元気に遊ぶ姿が見られる。しかし普段から運動している児童とそうでない児童との体力差は大きく、ボール運動に自信をもてない児童もいる。レクリレーションでドッジボールを行った際には、コートの隅に集まったり、ボールを取っても近くにいる仲間に渡して投げてもらったりと積極的にボールに関わろうとしない姿が見られた。そこでルールの工夫や声掛けにより、みんながボールに触れる機会を増やした。少しずつボールを投げたり受けたりする力の差は縮まっているように見えるものの、ボールに関わろうとする意欲にはまだ差が見られる。

事前に行った体育科の授業についてのアンケートによると、「楽しく勉強できる」や「体を動かすことが好き」、「ルールを守る」の項目では多くの児童が「はい」「どちらかというと思う」と答えている。一方、「サッカーができる」の項目では、「どちらかというと思わない」、「いいえ」と答える児童が多く、サッカーに対して苦手意識をもっている児童が多いことがわかった。基本の練習やアクティブタイムを通して、基礎的・基本的な技能を習得させ、サッカーに対して苦手意識をもっている児童の意欲や関心を高めていけるようにしたい。

体育科授業アンケート

	はい	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	いいえ
楽しく勉強できる	21名(66%)	8名(25%)	3名(9%)	0名(0%)
体を動かすことが好き	19名(56%)	8名(25%)	2名(6%)	2名(6%)
サッカーができる	4名(13%)	10名(31%)	11名(34%)	6名(19%)
ルールを守る	23名(72%)	7名(22%)	1名(3%)	0名(0%)

(2) 教材観

サッカーは、攻守が混じり合う中で主に足を使って行う運動である。チーム内の攻防の役割を分担し、パスやドリブルなどを使い、相手の守備をかわして攻撃する技能や防御の仕方を身に付けてゲームをすることをねらいとしている。そのためには、ボールを止める・蹴る・運ぶといったサッカーの基礎的・基本的技能を身に付けるとともに、状況に応じてパスやドリブル・シュートなどを使って攻撃したり、相手の攻撃を阻止するための様々な守り方を身に付けたりすることが必要となる。

また、サッカーは集団で行う球技なので、個人技能と集団技能がともに必要である。そのため、技能面での課題が多くあり、課題設定がしやすく、児童が自分の能力に合った課題をもつことができ、チームの特長を生かすための集団技能に関する課題をもつこともできる。これらの課題を一つ一つ解決させていくことによって、子どもたちが運動を楽しみ、チームが一つにまとまって取り組める運動である。

(3) 指導観

チーム編成は、すべての児童の運動量を確保し、チームでの話合い活動を活発に行なうことができるよう、少人数グループを6チームつくる。また、コートは本校の運動場の広さを考慮して28m×22mのコートを3面にした。試合に出ないときは、ゲームの審判や得点係をしたり、仲間の応援をしたりして、サッカーのルールの理解や友達のよいプレーを見付けることができるようになっていきたい。さらにボールを軽量の3号サッカーボールにすることによって、ボールに対する恐怖心を少しでも和らげていこうと考えた。

単元の「はじめ」の段階では、まずサッカーの運動の特性に沿った「よい動き」を映像資料(DVD)で見て理解させる。サッカーの学習に対する意欲を高めるとともに、ボールを止める・蹴る・運ぶといった基礎的・基本的な技能を知ったり、単元全体の見通しをもったりできるようにする。そして、映像資料で見た「よい動き」を実際の練習や、4対4の試しのゲームでやってみる。個人チェックカードを用いて、チーム内で「よい動き」ができているか見合うことで、「今の自分にはどのような技能が必要なのか」ということに気付くことができ、個人の課題やチームの特長、課題を見付けることができるよう助言を行っていく。

「なか」の段階では、本時の学習課題の確認を行った後に「基本の練習」(10分)の時間を設定した。この「基本の練習」の時間では、ボールを使った準備運動をせるだけでなく、ボールを持っていない時の動きを身に付けさせたい。ボールを持っていない時の動きには、スペースに移動してボールを受けたり、相手のマークを引き付け、スペースをつくったりする「攻撃の動き」と、ボールとゴールの間に立ち、相手のボールを奪ったり、シュートコースやパスコースを限定したりする「守備の動き」がある。今回の学習では、相手のボールを積極的に奪いに行く「守備の動き」を身に付けさせることに重点を置きたい。サッカーは、ボール操作の技能の高い児童であってもボールをキープする際、足元のボールを見てしまい、顔を上げて周りの状況を見ることが難しいという特性がある。よって、ボール操作の技能が低い児童であっても、ボール操作の技能の高い児童の隙についてボールを奪うことは可能である。相手チームからボールを奪い、自分のチームの攻撃回数を増やすことでチームに貢献させたい。それらの活動を通してサッカーに苦手意識をもっている児童の意欲を高めたり、運動量を増加させたり、特長を作ったりすることができると考える。より多くの児童がボールに関わりをもつことで、全体の運動量が増えるだけでなく、サイドや相手の背後のスペースを生かす児童が出てきたり、スペースに動いた児童に対す

る守り方を考えたりとゲームの様相に変化が見られると考える。「基本の練習」では「1対1対1」(本時の展開参照)や「ドリブルおにごっこ」を行う。「1対1対1」では常に攻撃側1人、守備側2人の状況になるため、攻撃側がゴールを奪うことは難しいが、守備側は比較的簡単にボールを奪うことができる。ボールを積極的に奪う経験を積み重ねることで、ゲームの中でもボールに関わることができるようにしたい。「ドリブルおにごっこ」では、おに役の児童のみボールをドリブルしない。自由に動いてボールを取りに行って良く、ドリブル技能が高い児童にも追い付いてタッチすることが可能である。ボールを持っていないということは大きなアドバンテージであることに気付かせ、ゲームの中でも積極的にボールを奪いに行くことができるようにしたい。

またはじめは「基本の練習」の時間を10分としているが、児童の実態に合わせて短くし、「アクティブタイム」の時間を長くしても良いと考える。はじめ「アクティブタイム」は、16分設定している。「アクティブタイム」はチーム内やチーム相互で見合い、教え合う活動を行うことにより、チームや個人の力に合った学習課題を探究し解決することができるよう進めていく。特に、「はじめ」の段階の練習や試しのゲームで見付けた課題(ボールを止める・蹴る・運ぶといった個人技能)を中心に練習することができるように助言していきたい。学習カードを用いて、児童がキャプテンを中心に課題の探究、課題解決の場となるようにしていく。また、これらの課題の探究、課題解決の際にチーム力を高める練習をより児童がイメージ化しやすいように、映像資料をタブレット端末に入れて、いつでも見られるようにしておく。

指導者は授業までに、前時の対抗ゲームや学習カード、個人チェックカード、「よい課題の変遷表」などから動きにつまずきのある児童を把握しておく。そこからその児童に授業中どのように気付かせたいのか、どのような力を付けさせたいのかを考え、指導や助言の内容をあらかじめ準備しておくようとする。またタブレット端末とビデオカメラを活用し、アクティブタイムや対抗ゲームを撮影する。良かった動きや、つまずきの見られる動きを見付け、その場や次時のアクティブタイムで児童に見せる資料にする。それらを基に、つまずきの見られる児童に対して指導者が積極的に関わり、アクティブタイムを適切な指導、支援を行うことができる有意義な時間としたい。

対抗ゲームでは、アクティブタイムで習得したことを活用し、チーム内で教え合い・励まし合えるようにしていきたい。その後のチームの話合いでは、児童が設定したチームのめあてや、個人の課題が、アクティブタイムや対抗ゲームを通して探究・解決することができたかを振り返る時間としたい。また、本時の課題の探究・解決活動を受けて、次時の課題の設定やアクティブタイムの練習内容などを次時の学習カードに計画できるようにもする。全体の話合いの場では、対抗ゲームで、アクティブタイムの練習や課題の解決が見られた場面などの発表をさせる。チーム内だけでなく、相手チームの中で見られたことも話し合いの中で出せるよう助言をしていきたい。

「まとめ」の段階では、身に付けた個人技能や集団技能を生かしてゲームができるようにさせたい。自分たちのチームの特長を生かした簡単な作戦を立ててゲーム大会を楽しむとともに、児童により自主的な企画運営をさせたい。

7. ボール運動の観点別評価規準

技 能	態 度	思 考・判 断
<ul style="list-style-type: none"> 簡易化されたゲームの中で、運動の特性に応じたボール操作の技能を身に付けることができる。 ゲームの攻防の中で、ボールを持たない時の動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間とともに、ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとしている。 ルールやマナーを守って、仲間と協力しながら安全に練習やゲームをしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に応じた動きを知り、簡易化されたゲームを行うためのルールを工夫している。 チームの特長を知り、作戦を立てている。

8. サッカーの観点別評価規準

技 能	態 度	思 考・判 断
<ul style="list-style-type: none"> 相手や味方の動きをよく見て、パスをしたり、パスを受けてシュートしたりすることができる。 相手のいないところに移動して、パスを受けることができる。 ボールを持っている相手に対して、ドリブル、パス、シュートされないように守ることができる。 ボールを持っていない相手にも同じように守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> チームや個人の学習の課題を見付け、進んで練習やゲームに取り組もうとしている。 ルールやマナーを守り、仲間に声をかけていく。 仲間と協力して、進んで用具や場の準備・片付けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> サッカーの学習のねらいや進め方を理解している。 自分やチームの課題に合った学習を選んでいる。 簡単な作戦を立てたり、ルールを工夫したりしている。 チーム内の話合いに積極的に参加し、自分の意見を発表している。

9. 学習指導・評価計画（別紙）

10. 本時の学習（7 / 9）

(1) 目標

相手のいないところに移動し、パスを受けシュートすることができる。 (技能)

仲間で、よい動きを教え合ったり、励まし合ったりすることができるようとする。(態度)

チームや個人の特長を生かして簡単な作戦を考えるようとする。

(思考・判断)

(2) 本時の展開

学習活動	指導者の働きかけ	評価	準備物
1. 本時の学習課題の確認をする。 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> 個人の課題やチームの課題が十分に確認できているかどうか確認する。 前時のよい動きを、児童の模範プレーで紹介する。 		学習カード ナンバリングベースト
2. 基本の練習をする。 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ボールを使った準備運動は、個人技能を高めるためのものを主に行わせる。 繰り返し練習を行い、技能と意欲の向上を図る。 		班別かごマーカーコーン 映像資料(DVD) タブレット端末 作戦ボード
3. アクティブタイムの活動をする。 (16分)	<ul style="list-style-type: none"> アクティブタイムの活動を学習カードより確認させる。 個人の課題解決に取り組むときにも、チーム内で声を掛け合わせ、伸びを評価し合ったり、教え合ったりさせる。 学習カードや課題の変遷表から、動きにつまずきのある児童を見付けておき、その児童に対して積極的に指導や助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間で、よい動きを教え合ったり、励まし合ったりすることができるようになる。(態) 	

	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決にせまる動きや、よい練習方法を見付けた児童やチームを賞賛し、更に意欲をもって学習に取り組めるようにする。 <p>4. 練習してきたことを生かして対抗ゲームをする。 (5 分 - 1 分 - 5 分)</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 課題を意識してゲームにのぞめるよう助言する。 プレーヤーとしてゲームに参加しない児童には、外から指示や励まし・賞賛の声をかけさせる。 課題解決にせまる動きが見られたり、チームでの協力がよかつたりしたときには、その都度賞賛の声をかける。 チームや個人の特長に応じて、どのように攻めたり守ったりするかといった簡単な作戦が考えられるよう助言していく。 	<p>・相手のいないところに移動し、パスを受けシュー トするこ とがで きる。 (技)</p> <p>・チームや個人の特長を生かして簡単な作戦を考え るようす る。(思)</p>	電子 ホイ ッスル 得点板
<p>5. 反省をし、次時の課題を見付け、全体で発表する。 (4 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの伸びを認め合い、よかつた点、改善すべき点を話し合わせ次時の課題を見付けさせる。 課題を見付けにくい児童には、個別に支援をする。 アクティブタイムや対抗ゲームでよかつたことなどを発表させる。 		
<p>6. 整理運動と片付けをする。 (2 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 整理運動をする。 仲間と協力して片付けをする。 		

映像資料

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| サッカー（全体イメージ） | ボールキープ編 |
| ゲームの仕方（ルール・反則） | 守りの基本編 |
| トラップ・キック | ゴールキーパー編 |
| 基本練習編 | 作戦の立て方 1 |
| (ドリブルからのシュート・1対1・パスからのシュート) | |
| ボールタッチ編 | 作戦の立て方 2 |
| ドリブル・ターン編 | 指導者の皆さんへ～ゲームの変化～ |